

第 35 回日本受精着床学会 抄録

演題名：不妊治療専門クリニックにおけるマザークラスの検討

当院では 2011 年「不妊治療後妊婦のとらえ方—転院後施設より—」として転院先の医療スタッフ（医師・助産師・看護師）を対象に「不妊治療後妊婦と一般妊婦について」のアンケート調査を行う先行研究を実施した。その中で『不妊治療後妊婦と一般妊婦に違いがあるか』の問いに『はい』の回答が 86.6%、妊娠初期は『妊娠することが第一目標で達成され、マイナートラブルを知らない人が多い』との意見が多く、不妊治療施設でも妊娠・出産・育児を含めた関わりや、妊娠期におけるトラブルへの指導を進めていく必要があると検討した。また、当院グループでは妊娠初期の方を対象にマザークラスを実施しているが、開催が 3-4 ヶ月毎となり全妊婦を対象に実施できていない。

以上を踏まえて、医師・助産師・管理栄養士を中心に妊娠期に起こるマイナートラブルや、妊娠中の栄養指導など内容を再検討し、児とのつながりや交流を図る「初めての場」として 2017 年 1 月より「ハッピーファーストコンタクト」と題したマザークラスの開催を始めた。参加者にアンケート調査を実施した結果、『最も興味があった内容』として、食事について 39%、妊娠初期の過ごし方 26%、妊娠初期の注意点 18%、病院選びについて 13%であった。『マザークラスに参加することで妊娠生活についてイメージが持てましたか』の問いには、参加者全員が持てた・少し持てたと回答していた。自由回答では「ネットに情報が溢れているので、食事や生活など専門家の話が聞けてとても参考になった」や、「まだまだ不安もありますが、おなかの子どもの事を思いながら過ごしていきたいと思います。あたたかい気持ちになりました」との回答があり、参加者のバックグラウンドは様々であるが、妊娠している実感や夫婦ふたりの命がお腹に芽生えているということを感じる「初めて場」として、不妊治療専門クリニックにおける妊娠初期のマザークラスの重要性を検討したので報告する。